

### 門前びわ市 (真岡市)



MonzenBiwa-Ichi



Kuramono クラモノ。(栃木市)

特集

「まちづくりイベント」の今

「まちづくり活動」の新しい動きとして、昨年12月号で宇都宮市内の動きを特集しました。今回は、栃木県内の新しいまちづくり、若手主導による活動をご紹介します。

### 「若者」による「まちづくり活動」の拡大

最近、あちこちで「〇〇市」「〇〇マーケット」「〇〇マルシェ」といったイベントを目にすることが多くなりました。この多くは、いままでの「市」のイメージとはずいぶん違っています。運営も出店者も若者が主体であり、売られている商品も手作りばかりです。

従来はイベントの物販といえば、既成の業者の店舗がほとんどでした。お祭りの縁日が代表的ですが、例えば商店街のイベントなども、出店者はその商店街の店舗などが中心でした。

しかし今増えているのは、自分の店を持っていない若手作家（小物や衣服、家具など）や、別に職業を持っているアマチュアが集まって、ブースを出しているイベントです。宇都宮市内でもバンバひろばの「サースデイ・ナイト・パーティー」やオリオン通りの「サンセットマルシェ」など、同種のイベントが増えています。

そこで今回は、県内このうしたまちづくりイベントを紹介いたします。会員の皆さんの「まちづくり」のヒントになれば幸いです。



# 県内の事例から考える「まちづくり」

## 起業支援とにぎわい創出、「青空市イベント」の効果

## 次世代への継承と後進育成

事例01 **ネコヤド商店街 (鹿沼市) Nekoyado-Shotengai**

今回ご紹介するのは、

◎ネコヤド商店街(鹿沼市)

◎クラモノ。(栃木市)

◎門前びわ市(真岡市)

の3カ所です。これらはいずれも、

◎青空市形式。

◎出店者の中から独立店舗を構える人が出ている。

◎地域の若手起業者が中核となっている。

といった特徴をそなえています。

では、ひとつずつ詳しく事例を見ていきましょう。

【エリア】Cafe 饗茶庵周辺 他  
【主催】ネコヤド商店会（出店者などによる運営委員会）  
【概要】「ネコヤド商店街」は、平成18年に「ネコヤド大市」としてスタートしました。当初は市内のCafe 饗茶庵隣りにある「花蓮」を会場として、毎月1回開催していました。

催していました。初めの頃の参加店舗数は7、8店舗でしたが、回を重ねることに増えていき、現在は約40店舗が参加しています。

平成24年に、運営をネコヤド大市から独立した店舗で構成されたネコヤド商店会に移行し、同時に現在の名称に変更しました。

最近では数百メートル離れた場所の「道の駅・新鹿沼宿」なども会場になっています。また近隣の通称「天神長屋」の店舗も参加し、地域内での広がりが出てきています。

鹿沼市内に「ネコヤド」出身の店舗は、すでに15店舗を数えており、天神長屋の出店者にも、「ネコヤド」出身者が少なくありません。

「ネコヤド」を始めたのは、「Cafe 饗茶庵」オーナーである、風間教司さん。風間さんは他に鹿沼市内で「日光珈琲朱雀」、日光市で「日光珈琲」などの店舗を営んでいます。

「私は24歳で、生まれ故郷の鹿沼



「ネコヤド」の中心人物、「Cafe 饗茶庵(鹿沼市上材木町1737)」オーナー・風間教司さん

でカフェを始めました。3、4年たって、店の経営もある程度軌道に乗った頃「自分も起業したい、店を持ちたい、どうしたらいいだろう」という相談を受けるようになりました。

そうした中から、現在Cafe 饗茶庵の隣にあるフランス料理店「アンリロ」や、益子のカフェ「バンド・ムシャムシャ」などが生まれました。

「バンド・ムシャムシャ」さんは、最初は月に一度うちに来て出張販売をされていたんです。それを見て「こういう形態であれば、自分でもできる、やりたい」とおっしゃる方が何人かいらしたかったので「だったら、みんなでやろう」ということになりました。これが「ネコヤド商店街」の前身である「ネコヤド大市」を始めるきっかけでした。

これまでに、ネコヤドから鹿沼市内に15



「ネコヤド商店街」メイン会場「花蓮(はなれ)」



ネコヤド出身の店舗も多い、通称「天神長屋」

Nekoyado-Shotengai



「油伝味噌」敷地内にも出店ブースが並びます

ていたそうです。  
一度、人力車サービスの商売を始めたものの失敗。しかしその時に、栃木市の中核をなす人々と知り合うことで、現在の基礎ができたと大塚さんは言います。  
「人力車をやめて古道具屋を始める時、店舗を借りようとしたが、20カ所以上断られました。それでも諦めずにやれたのは、皆さんの励ましがあつたからだと思います」

特に、雑貨卸の(株)ライフデザインの鈴木和彰社長には、さまざまな面で支援を受けたそうです。大塚さんが嘉右衛門町に店を構える時に、鈴木さんも「Espace noie (トラベルノート)」を開店しました。「クラモノ。」は大塚さんと鈴木さんなどが中核となってスタートしたイベントです。こうした若手と、油伝味噌の小池社長のような地域のリーダーが「まちづくり」「まちおこし」で協力し、確実に成果を残しつつあります。

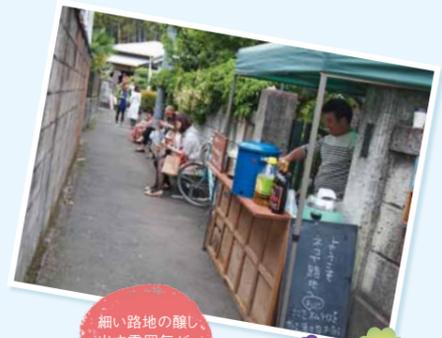
「イベントには多くの人がいらつしやいますから、時には周辺商店から苦情がでることもあります。実行委員会としては、苦情が出ないように細心の注意を払っていますが、出てしまった場合には誠心誠意対応しています」と話す大塚さん。前回もらった注意を次回の改善点にするなどして、イベントをよりよくすると同時に、地域との友好関係を維持する努力をしています。そうした積み重ねもあり、「がんばれよ」という応援の声も増えているそうです。  
出店者については、イベントのクオリティを保つため、委員会メンバーがある程度選定を行っています。販売している作品や商品



地元の商店街などが実施している「天の織姫市」

【エリア】長蓮寺前、境内 他  
【主催】仁平古家具店  
【概要】「門前びわ市」は平成23年から隔月で第2日曜日に開催しています（8月は休み）。主催は仁平古家具店ですが、今回ご紹介した他の事例同様に、若手が協力して運営しています。  
当初は約10店舗、会場も仁平古家具店内で開催していました。その後、出店者の拡大に伴い、会場を長蓮寺境内近辺に移しました。現在までに約20回ほど開催しており、現在の出店者は毎回約50店舗とあります。  
また、もともとは飲み屋が多く並んだ長蓮寺前の細い道路を、主催の仁平古

店舗ほど（市外を含めると30店舗ほど）、菓立つています。起業したい人のゆりかごとしての役割も十分に果たしています。これは、風間さんや市内の若手経営者が先達として支援してきたことも、大きな理由でしょう。  
いま、風間さんたち鹿沼の若手商店経営者たちは「DANN AVISION (ダンナビジョン)」と名付けた活動に力を入れています。江戸時代に、まちづくりの中心的役割をこなってきた「旦那衆」に学ぼう、というコンセプトの活動です。  
「地方都市は、高齢化と人口減少に直面しています。このまま何もやらないと、街の魅力が失われ、衰退してしまふ。幸い鹿沼には『鹿沼ぶつつけまつり』や『彫刻屋台』などの伝統があり、これに『ネコヤド』や若い人の店といった新しい魅力が加われば、きっと地域を盛り上げることができると考えています。  
今後は団塊の世代にも仲間になつてもらい、人が集まる街にしていきたいと思っています」



細い路地の顔し出す雰囲気が、イベントの魅力につながります



## 「ここががんばろう！」という気概が大切

### 02 クラモノ。(栃木市) Kuramono

【エリア】嘉右衛門町周辺  
【主催】クラモノ実行委員会（出店者などによる運営委員会）

【概要】「クラモノ。」とは「蔵の街で宝物を探そう」という意味で名付けられました。平成23年から年1回、5月に2日間の期間で開催しています。第1回の参



若い人や家族連れなど、幅広い客層が目立ちます

加店舗は35店舗でした。今年は5月25日（土）、26日（日）に開催し、63店舗が参加。当初に比べ、倍になっています。  
開催場所は、「嘉右衛門町」という栃木市の中でも古い街なみが残っている場所です。その「古さ」「歴史」を活かすため、空いている店舗の中に出店者を配置し、通りを散策しながら買い物を楽しめるようになっていきます。今回紹介した他の2事例が、いずれも基本的には1、2カ所に集約される形式で開催しているのに比べて、地域内全体を会場としているのは、特徴的です。  
参加店舗の一つでもある油伝味噌(株)は、小池英夫社長が以前からまちづくりに積極的で、映画祭などさまざまなイベントに関わってきました。「クラモノ。」では店舗としての参加だけでなく、敷地内を出店者やライブ演奏のために開放しています。  
クラモノ出店者でその後

内容、趣旨に対する理解などを見きわめながら選定しているとのこと。  
大塚さんは「現在、嘉右衛門町地域に集まっている若手は、みんなこの地域に魅力を感じ、『ここががんばろう！』という気概を持っています」と言います。そういう意識の高さが、まちづくりイベントには不可欠なのかも知れません。

## 複数のイベントの開催で相互効果

### 03 門前びわ市(真岡市) Monzenbiwa-ichi



街なみを活かしたイベント展開

自分の店舗を持った方は、「カフェザール」の加藤裕司さん、「スマイルファーム」の落合正明さんなど3店舗。いずれもイベントの運営委員会メンバーとしても活躍しています。  
嘉右衛門町は今年から「国選定重要伝統的建造物群保存地区」となり、街なみ景観の保存が行なわれています。

「クラモノ実行委員会」の委員長は、古道具店「SCALES APARTMENT」(スケールスパートメント) やアンティーク家具雑貨店「scales department」(スケールスパートメント) を経営する、大塚悦雄さんです。

平成21年10月に、嘉右衛門町に「SCALES APARTMENT」を開いた大塚さんは、もともとは真岡の出身ですが、以前から栃木市で店舗を持ちたいと考え

「クラモノ実行委員会」委員長、大塚悦雄さん。古道具屋「SCALES APARTMENT」(栃木市嘉右衛門町9-12)などの店主でもあります





(一社)エリア・イノベーション・アライアンス理事、村瀬正尊さん。まちづくり会社「(株)マチツクリ・ラボラトリー」社長でもあります

イベントの目的は、あくまで「まちづくり」です。イベントに参加して販売経験を積み、出店者同士が交流できる素地を作ることが、今後の開業につなげるメリットの一つとなるでしょう。

#### 4 イベント参加者が地域で独立できる流れを作る

今回の特集では、全国各地の事業型まち会社のアライアンス組織であり、まちづくり事業の産業化を目指して、地域間、企業との事業提携を進めている非営利団体(一社)エリア・イノベーション・アライアンス理事の村瀬正尊さんから、さまざまなサジェスションをいただきました。全国の先進事例などにも詳しい村瀬さんは、全体を総括して次のように話します。

#### 出店しやすい環境の整備を!

今回紹介した事例は、ごくごく一部です。栃木県内だけを見ても、他にもさまざまなまちづくりが行なわれ、今後も企画されていくことでしょう。

「ネコヤド」は風間さんたち若手経営者たち(二代目なども含む)が、経営ノウハウをある程度身につけてからイベントがスタートしました。「クラモノ。」や「門前びわ市」は、開店からイベント開始まで数年でしたが、栃木市では油伝味噌の小池社長、真岡市では大前神社の柳田宮司といた、地域のベテランキーマンたちが支援

#### 2 既存の商店や企業経営者によるバックアップは不可欠

「ネコヤド」は風間さんたち若手経営者たち(二代目なども含む)が、経営ノウハウをある程度身につけてからイベントがスタートしました。「クラモノ。」や「門前びわ市」は、開店からイベント開始まで数年でしたが、栃木市では油伝味噌の小池社長、真岡市では大前神社の柳田宮司といた、地域のベテランキーマンたちが支援

#### 3 商店街や住民、若手同士など、地域とのリレーションを大切に

「門前びわ市」主催の仁平古家具店オーナー、仁平透さんは地元出身ではありませんが、以前から真岡市で商売をしたかったそうです。古家具店以前には飲食店を営んでおり、経営ノウハウは持っていました。

### MonzenBiwa-Ichi



「びわ市」同様、若手経営者による「リビングマーケット」



長蓮寺境内を借りて開催される「門前びわ市」

家具店を皮切りに若い人の店が増えています。これらの店舗もイベントに参加しており、「びわ市」出身者もいます。「門前びわ市」で目立つことの1つは、他のイベントとの連動です。平成20年から長蓮寺に接する真岡木綿会館と市営駐車場で開催されている「天の織姫市」と連動している他、近年はやはり若手による「リビング・マーケット」とも歩調を合わせています。

家具店オーナー、仁平透さんは地元出身ではありませんが、以前から真岡市で商売をしたかったそうです。古家具店以前には飲食店を営んでおり、経営ノウハウは持っていました。

「門前びわ市」主催の仁平古家具店オーナー、仁平透さんは地元出身ではありませんが、以前から真岡市で商売をしたかったそうです。古家具店以前には飲食店を営んでおり、経営ノウハウは持っていました。

### 事例からみる5つの共通項

今回の3事例をみていくと、いくつかの共通項が浮かび上がってきます。それらを整理し、そこから学び取れることを見てくださいませ。

#### 1 中核は地域の若手が力を合わせる

今回の3事例で興味深いのは、集客です。従来であれば、イベントはチラシを作ったりポスターを作ったり、マスコミ各社にプレスリリースを配布して取り上げてもらったりと、さまざまな方法でアピールしなければなりません。PRにお金をかけることで、集客効果を狙っていたのです。

#### 5 宣伝は口コミ、手渡しが基本

しかし、今回の事例ではどれも、PRにさほど費用をかけていません。インターネットという便利なメディアを活用しつつ、昔ながらの口コミも最大限に利用しています。印刷物も、ほとんどが金をかけず、手軽な作り方をしています。これは、これからイベントを実施する人にとっても、参考になるのではないのでしょうか。

「最初は私の店の中でやっていたのですが、徐々に出店者が増えて来たことと、目の前で定期的に織姫市が開催されていま

「門前びわ市」主催者であり、「仁平古家具店(真岡市荒町1095)」オーナーの仁平透さん



「門前びわ市」主催者であり、「仁平古家具店(真岡市荒町1095)」オーナーの仁平透さん

外部の人間ではなく、地域に店舗や地盤を持つ若い人が、協力しあって運営しています。それぞれ足りない部分を補いながらノウハウを蓄積しています。そして「ネコヤド」などでは、そのノウハウの継承も始まっています。自分たちの街の「まちづ

外部の人間ではなく、地域に店舗や地盤を持つ若い人が、協力しあって運営しています。それぞれ足りない部分を補いながらノウハウを蓄積しています。そして「ネコヤド」などでは、そのノウハウの継承も始まっています。自分たちの街の「まちづ